

ヒュー・ブラウン師

ヨハネの福音書 3 章 16-18 節

「神の愛」

3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

3:17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。

3:18 御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれている。

はじめに

イースターの期間中にみことばのメッセージを OIC の皆さんとお分かちする機会に与りましたが、これで最終回です。3 つのテーマは、コリント第一 13:13 から引用しました。

コリント第一 13:13 こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。

ここには、永遠に私たちから奪われることのないものが 3 つだけ挙げられています。今日はこのリストから、その中で一番すぐれているといわれる愛について学びましょう。まず何よりも、今日お話しするのは聖書が教える愛についてであることを明確におかなくてはなりません。それは、新約聖書の原語であるギリシャ語で「アガペー」と呼ばれる愛です。この種の愛の特徴についてコリント第一 13:4-8 で読むと、世間で言われたりラブソングで歌われたりする類の愛とは違うことに気づきます。世間が語る愛は、人の感情が根底にあります。人の感情は常に見返りを求めますから、基本的にこの種の愛は自分中心です。聖書の教える愛は、意志と決意、そして自己犠牲の上に立つ愛です。一言でいえば、聖書の語る愛は、私たちに対する神の無限の愛です。そして、十字架上でささげられた神の御子イエスの犠牲をとおして、もっとも明確に示されています。

今日は、神の愛のおもな特徴についてともに学びたいと思います。

1. 永遠の愛

エレミヤ書 31:3 主は遠くから、私に現れた。「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに、誠実を尽くし続けた。」

このエレミヤ書 31 章 31-33 節には、新しい契約の約束が与えられています。これは重要な点です。この契約は、十字架上で流されたイエスの血によって封印されています。神の永遠の愛による永遠の契約の血です。

コリント第一 13:8「愛は決して絶えることはありません。…」

旧新約聖書の全体をとおして、永遠の変わらない愛を明示する無条件の約束はひとつだけです。

ヘブル 13:5-6

13:5 金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足しなさい。主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」13:6 そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。「主は私の助け手です。私は恐れません。人間が、私に対して何ができましよう。」

神の約束はことごとく、イエスにおいて「しかり」なのです。(コリント第一 1:20)ですが、約束が私たちのうちに実現するためには、それに付随する条件を満たさなければなりません。例えば、マタイ 6:33 です。「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」どの約束にも条件が伴います。そして、その条件を満たすまでは、それが本当かどうか実体験することはありません。ヘブル 13:5-6 にあるイエスの約束には、その約束が真実であるとわかるために待つことだけが問われていて、それ以外には条件はありません。時間が経つにつれ、これが真実であることを深く知るようになります。私にとって、主が絶えずご臨在くださるという約束は素晴らしいですが、それだけではありません。6 節で、いつもともにいるという約束が何を意味するかを主は説明されます。あらゆる試練の中で、ただそばにいてくださるというだけではありません。助け主としてともにおられ、そばにおられるだけでなく、私たちの味方でいてくださるのです。ともにいてくださるだけでなく、私たちのためにいてくださるのです。私たちが失敗したとしても、決して神は私たちの敵ではありません。神の愛は、私たちの出来の良し悪しに左右されないからです。

にわかには信じがたいかもしれませんが、それは、人間の愛を基準に考えてしまうからです。人間の愛ならば、相手を失望させてしまったら、もう味方ではいてくれないでしょう。だから、神が私たちの敵となって、私たちに苦しめられるのでは、と思ってしまいます。それが人間関係で頻繁に起こることなので、神も同じだと思ってしまうのです。

クリスチャンになってまだ間もなかったころ、良いクリスチャンだったら神に愛してもらえると私は思っていました。それで、完ぺきに神に従おうと必死に頑張り、律法的なクリスチャンになってしまいました。それはとても疲れる生き方です。クリスチャンになんてならなければよかった、と思うほどでした。イエスは、「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」(マタイ 10:28)と言われたのに、私は正反対の生き方をしていました。イエスは、パリサイ人の律法主義という疲れる人生から解放しようと人を招いてくださいました。たましいに安らぎを与えようとしてくださったのです。イエスは今も私たちを招いておられます。それなのに、クリスチャンになった後もまだ律法主義に陥ることがあります。使徒 15 章は、エルサレムで最初のキリスト教会議が開かれた場面です。この会議が開かれた理由は、まさに律法主義です。そこで使徒ペテロは次のように語りました。

使徒 15:10-11

15:10 それなのに、なぜ、今あなたがたは、私たちの先祖も私たちも負いきれなかつたくびきを、あの弟子たちの首に掛けて、神を試みようとするのです。15:11 私たちが主イエスの恵みによって救われたことを私たちは信じますが、あの人ももそうなのです。」

キリスト教は、律法をどれだけ守るかという成績ではなく、主イエスによって無償で与えられた神の恵みがすべてです。

自分が律法主義に陥っていないかを確認するひとつの方法は、人をどれだけ厳しくさばくかです。律法主義は常に、厳しく無情に人をさばきます。そういうわけで、イエスは律法主義者に対して非常に厳しい言葉に向けておられるのです。イエスはマタイ 9:13 で、『わたしはあわれみは好むが、いけにえは好まない』とはどういう意味か行って学んできなさい』とおっしゃいました。では、神の愛のふたつめの特徴に進みましょう。

2. 自己犠牲の愛

ヨハネ 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

この個所に「～ほどに」という表現があります。これを見逃さないでください。これは、神が私たちが愛してくださっていることを強調しています。神はどれほど私たちが愛してくださっているのでしょうか。それは、ご自身のひとり子をこの世に遣わすほどです。それだけでなく、この世でもっとも残酷で苦しい不当な死をその御子に味わわせるほどです。これは、私たちの理解や想像をはるかに超える愛です。とは言え、神の愛を実際に体験することができないという意味ではありません。

エペソ 3:19-20

3:19 人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができますように。こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように。3:20 どうか、私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方に、

「人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができますように。」というのは、矛盾しているように聞こえます。使徒パウロは、信徒たちが神の愛を自分たちの実体験として余すところなく知るようと祈っています。クリスチャンは皆、罪の赦しをとおして神の愛を一定程度は知っています。その赦しがどれほどのものかを知れば知るほど、主イエスへの愛が深まります。

自己犠牲の愛を麗しく示した模範について、イエスは、福音が語られるところはどこでもその話が語られるとおっしゃいました。

ルカ 7:47 だから、わたしは言うのです。『この女の多くの罪は赦されています。というのは、彼女はよけい愛したからです。しかし少ししか赦されない者は、少ししか愛しません。』

これは、ベタニヤのパリサイ人シモンの家で食事をしておられたときに語られたイエスの言葉です。高価な香油の入った石膏のつぼを持った女が、イエスの足を涙でぬらしました。この女は、多くを赦されたことを知っていたので、イエスをたくさん愛しました。神にもっと愛していただくためにもっと罪を犯す必要はもちろんありません。主イエスに近づくほどに、自分の罪深さに対する認識が深まるのです。クリスチャンは自分の罪深さの認識が深まっても、罪悪感が増すものではありません。むしろ、主イエスに対する感謝と愛にさらに満たされるようになります。信徒たちがもっと主イエスに近づけるようにと使徒パウロが祈っているのはそういうわけです。私たちは皆、すべてを主イエスに明け渡すことで、もっと主に近づくことができます。そうするなら、イエスに対する愛に満ちあふれるとはどういうことかがわかるようになります。この女は、香油を犠牲だとは思いませんでした。むしろ、喜んでささげたのです。

神が愛によって、私たちのためにすべてをささげてくださいましたように、私たちも神に対する愛で満たされ、犠牲とも思わずにすべてをささげるようになれる。

3. 無条件で完全に赦す愛

コリント第一 13:5 礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、

無条件の愛は、無条件の赦しも意味します。5 節の最後にある言葉は、私たちクリスチャンにとって実践するのがもっとも難しいことではないかと思います。また、神の愛について語るこの箇所全体においてもっとも誤解されている部分だと思えます。「人のした悪を思わず」は、「愛は人の悪事の記録を残さない」と訳される場合もあります。これは実は、完全で無条件の赦しについて語っているのです。イエスが十字架上で祈られたとき、「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」とおっしゃいました。「彼らが悔い改めたら赦してください」とは祈られませんでした。彼らをお赦しくださいとイエスが祈られたとき、彼らが悔い改めていなかったことは明らかです。ではなぜ、相手が悔い改めていなければクリスチャンに赦す責任はないと多くの教会で教えられているのでしょうか。イエスは、私たちが悔い改めるのを待って、私たちの赦しを祈られたのではありません。これは、この地上でささげられた祈りの中でもっとも力強い祈りです。そして、イエスだけが祈った祈りではありません。

使徒 7:60 そして、ひざまずいて、大声でこう叫んだ。「主よ。この罪を彼らに負わせないでください。」こう言って、眠りについた。

ステパノは、クリスチャンで最初の殉教者となりました。彼は、自分を殺そうとする人々のためにイエスとまったく同じように祈りました。その人々はまったく悔い改めてはいませんでした。歴史を見れば、ステパノが思う以上に豊かに神がその祈りに答えてくださったことは明らかです。迫害の首謀者は、赦されただけでなく、史上初の宣教師となり、新約聖書の少なくとも半分を書きました。もちろん、私たちが悔い改めたときに、神の赦しと和解をいただいたわけですが、神は 2000 年前にイエスの十字架で私たちの罪をすでに赦してくださっています。神が私たちを無条件で完全に赦してくださったのとまったく同じように、私たちも人を赦すことを神から命じられています。和解には、罪を犯した相手が赦しを受け取る必要性があります。一方、イエスが赦してくださったように赦すのであれば、赦しは無条件でなければなりません。

みっともない、一般受けしないことかもしれませんが、これが、イエスの示された模範であり、これについては、非常に厳しく明確に語られました。

マタイ 6:14-15

6:14 もし人の罪を赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦して下さいます。6:15 しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの罪をお赦しになりません。

これは主の祈りの中で、イエスが唯一繰り返して強調された内容です。

すべてのクリスチャンが必ずできることです。なぜなら、神に人生を完全に明け渡すなら、神の愛に満ち溢れるようになれるからです。互いを完全に無条件で赦せることは、何よりも説得力のある証です。赦しは他の何よりも、世間の人とクリスチャンの違いを示すべきものです。

まとめ:これよりも大きな愛はない

これらの特徴をひとまとめにすると、これ以上に大きな愛はないことは明らかです。

ヨハネ 15:13 人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。

人間同士の愛でも自己犠牲をいとわないものはあります。友のために自分のいのちを投げ出すというのは、もっとも偉大な人間の愛の例です。おそらく一番思い描きやすいのは、親子関係です。子を持つ親なら、わが子のために自分の命を投げ出せると思うでしょう。けれども、人間の愛では、他人のために、とくに敵のために、わが子を犠牲にしようとは思いません。これこそ、神の愛によって私たちのためになされた御業です。だからこそ、神の愛は人知をはるかに越えたものなのです。

ローマ 5:8 しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。

私たちに対する神の愛がもっとも明らかにされているのはイエスの十字架の死だと、このみことばは語りまします。そして、私たちが神の友ではなかった時にイエスが死なれたと明言します。神の愛がイエスを死に至らしめたのは、神の友のためだけではなく、神の敵のためでもある、とまだ信じきれない人のために、聖霊は同じ内容を10節でも繰り返して語らせています。

5:10 もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。

もちろん、私たちは神の敵になる道を故意に選んだわけではありません。しかし、私たちが神の敵であったと聖書が語る事実には変わりありません。私たちが神の敵であったときに、イエスは私たちのために死なれました。私たちがこのことを理解するようになったときに、これ以上ない大きな愛を初めて知るようになるのです。そして、その愛がどこにもっとも顕著に表れるのかを知るようになります。

ヨハネ 13:34-35

13:34 あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。13:35 もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

「わたしがあなたがたを愛したように」とあります。互いに愛し合いなさい、というのはそれまでなかった新しい戒めではありません。これは、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」という十戒の時代からあるものです。

イエスの新しい戒めは、「わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」とさらなる高みへと導くものです。

ローマ 5:5 この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。

神にすべてを明け渡すなら、私たちは神の愛に満ちあふれる体験をします。そして、イエスが私たちを愛してくださったように、互いを愛し合うことができるようになります。